

特集：彦根景観シンポジウム 2015

鎌倉に学ぶ、古い佇まいを活かした 新しいまちづくり



彦根景観フォーラムが参加する彦根歴史的風致活用実行委員会では、平成27年10月25日（日）、四番町ダイニング3F多目的ホール（彦根市本町一丁目7-34）で「彦根景観シンポジウム2015」を開催しました。当日は約45名が参加されました。

今回の特集は、その要点と彦根の景観まちづくりの課題についてお伝えします。

シンポジウムでは、濱崎一志・彦根景観フォーラム理事長のあいさつの後、「鎌倉の景観まちづくり」と題して、ひと・まち・鎌倉ネットワーク理事の梅沢典雄さんが、鎌倉の景観の特徴と「デザインレビュー」などの市民・事業者・行政の協働のまちづくりのしくみを紹介されました。

その後、「鎌倉から学ぶ彦根のまちづくり」と題して、山崎一真さん（鎌倉・湘南景観フォーラム代表理事、前彦根景観フォーラム理事長）が、鎌倉と彦根を比較して彦根の課題を示されるとともに、鎌倉・湘南景観フォーラムの活動を紹介されました。

なお、並行して彦根市指定文化財 足軽屋敷特別公開が10月24日（土）、25日（日）に行われ、善利組足軽屋敷の辻番所・旧磯島邸、太田邸、中居邸、服部邸、吉居邸、林邸、中藪組の瀧谷家が彦根辻番所の会などによって公開されました。

「鎌倉の景観まちづくり」梅沢典雄さん



鎌倉の景観の特色

梅沢さんは、建築家で、彦根市立病院の設計管理で彦根に滞在された経験もあります。講演では、最初に鎌倉らしい景観の特徴が紹介されました。

鎌倉は、彦根とほぼ同じ緯度ですが、太平洋に面

した温暖な気候で、三方を山に囲まれ、水が豊富な地域です。鎌倉時代に幕府がおかれましたが、以後は小さな漁村でした。明治になると海浜保養地として別荘の開発が始まり、横須賀線の開通などで急速に近代化しましたが、関東大震災で建物のほとんどが倒壊し壊滅的打撃を受けます。昭和になると文学者などの知識人層の居住地、別荘地として人気が高まり、戦後から現代にかけては山間部の大規模な宅地開発や人気観光地としての市街地開発が急速に進み、景観対策が大きな課題になっています。

鎌倉らしい景観は、三方の緑の山から、麓に建つ禅宗寺院や別荘であった洋館群を経て、緑の多い庭や路地をもつ住宅地を俯瞰し、穏やかな波が打ち寄せる海岸までの緑と調和した都市景観にあります。

街中では、山の緑と波の音が聞こえる小さな庭のある昭和の住宅と生垣・竹垣が続く細い路地が独特の雰囲気を出し、ビーチのサーファー文化ともうまく調和しています。



鎌倉市の景観まちづくりのしくみ

鎌倉では、平成19年に景観計画が策定されました。市内を21にも細かく区分し、区域ごとに景観形成の方針・基準を細かく定め、建築行為や開発行為の景観誘導に取り組んでいます。

平成20年3月には、古都鎌倉らしい景観が失われつつあった鎌倉駅・北鎌倉駅周辺市街地を都市計画で景観地区に決定し、建物の高さ、色彩・デザ

インに制限を設けました。

同時にそれ以外の地域でも、市民と建築者・開発者とがよりきめ細かく協議・調整する仕組みである「景観形成協議会」や「デザインレビュー」が開始され、地区レベルの市民主体の身近な景観づくりを行政が支える制度がつけられました。

ひと・まち・鎌倉ネットワークの活動

梅沢さんが理事を務める一般社団法人「ひと・まち・鎌倉ネットワーク」は、2003年2月に地域の建築家の交流会から始まり、路地の景観調査とその結果をまとめた冊子「現状で残る鎌倉の路地」を発行、まちのルールをわかりやすく解説し大人から子供まで読める絵本にした「鎌倉まちのいろは」の出版や震災と津波に備えた「そなえる鎌倉連続シンポジウム」、「逃げ地図ワークショップ」の開催などを行っています。

これらが評価され、2011年に鎌倉市から「景観整備機構」に指定されました。景観整備機構は、景観法により自治体が指定するもので、良好な景観の形成に関する専門家の派遣、情報提供、相談その他の援助を行う団体です。

由比ガ浜デザインレビュー

梅沢さんは、ひと・まち・鎌倉ネットワークが景観整備機構として由比ガ浜通り景観形成協議会をサポートして実施しているデザインレビューの事例を紹介されました。

由比ガ浜通り地区は、大正から昭和の初めに付近の別荘を得意先として繁栄した歴史のある商店街で、都市景観条例で景観形成地区に指定され、地元商店主などからなる景観形成協議会が組織されています。

この地区で商店の建て替えや模様替えをすると



由比ガ浜通り地区（商店街）

きは、建築主は、市役所に届け出て、市が地区の景観形成方針・基準に照らし審査・勧告を行います。届出の前に地区の景観形成協議会と協議することが条例で決められています。

景観形成協議会は、建築家等の専門家組織である「ひと・まち・鎌倉ネットワーク」のアドバイスを得ながら、デザインレビューを実施します。景観形成協議会の会員（商店主）、建物の設計者と建築主、ひと・まち・鎌倉ネットワークの会員、市役所の担当者が円卓を囲んで、模型などを使い、周辺の街並みにふさわしいデザインなどを意見交換します。

由比ガ浜の歴史を活かし、個性的で明るく活気にあふれたまちなみ（商店街）を作るために、商店主達は建築主に情報提供し、「ひと・まち・鎌倉ネットワーク」がデザイン的なアドバイスをします。2008年から2015年5月までで約30件の実績があります。

4階建テナント兼共同住宅の事例

由比ヶ浜通り地区の景観形成基準では、建物の高さは4階建て12m以下で、4階部分は道路境界より50cm以上後退するとなっています。

4階建テナント兼共同住宅の事前協議では、「ほとんどが3階建てのまちなみなので4階部分をセットバックして3階のまちなみを守ってほしい」との協議会の意見に対して、設計者が「店の前を空けるために既に全体をセットバックしており、さらに4階をセットバックすると床面積の確保がむずかしい」と回答し、「ひと・まち・鎌倉ネットワーク」のアドバイスで3階までを強調するデザインに変えてまちなみにあわせ、商店街らしさも出せた事例が紹介されました。（次頁につづく）



1回目のファサード案



2回目のファサード案